

「女性登用促進のための意見交換会」概要

日 時： 令和5年2月10日（金） 13：30～15：00

発表者： A市農業委員会 N.K氏、T町農業委員会 Y.I氏、N市農業委員会 R.H氏、
E町農業委員会 M.T氏、N町農業委員会会長 M.H氏、O市農業委員会会長 T.T氏

オンライン参加者： 44回線（管内農業委員会、農業協同組合、土地改良区等）



自己紹介・取組発表

〈N.K氏〉

県女性農業委員の会の会長も務めている。農業委員に就任して23年目。第3子が0歳だった30代に就任した。一度、子供の面倒を見てくれる人がいないときに、総会を欠席させてほしいと農業委員会事務局に連絡したところ、当時の村長さんが「あなたの仕事は公務なんだから、託児ができるよう計らうから出たおいで」と言ってくれた。地元きちんと恩返しをしないといけないなと思った。市町村合併前の当時は農業委員11人のうち6名が新人で、わからないことはお互いに相談し合って男女といった意識もなくやってこれたのが良かった。

地域の若い女性を繋いでいくことで女性の社会参画を進めていきたいという思いがあり、A市になってから女性農業者の会を立ち上げ、女性農業者同士の連携をとってきた。私のほかの3名の女性委員は全員その会に所属している。現在、A市農業委員会には4名の女性委員がおり、その比率は26.7%。50代の私が最年長で、4歳刻みで下に3名いる状態。彼女たちは斡旋もするし農地の最適化もやっており、男女で差はない。この状態を保ち女性委員の割合を30%以上にするのが目標。女性委員には1期や2期ではなく、なるべく長く続けて地域にきちんと還元するようにと言ってきている。

〈Y.I 氏〉

T 町農業委員会では、令和2年の改選により女性の農地最適化推進委員の数が3名から1名に減少した。2期務めると次の人に交代する暗黙の了解があること、受けてくれる女性がすぐに見つからないと男性にお願いすることが減少の原因。

私と農業の関わりは家庭菜園をしている程度。知り合いの役場職員に勧誘されて中立委員として自薦した。何も知らないので何でも聞くが、わからないことは恥ずかしくないことが強み。

現在2期目だが、中立委員としての立場は農業の本当の辛さや苦しさを理解していないという目で見られていると感じる。特に私は自薦で、各種団体から推薦されて農業委員になっているわけではないので不安が大きい。しかし、温かい目で見守り支えてくれる先輩・同僚委員や地域の方もおり、感謝している。

〈R.H 氏〉

6年前に中立委員として就任した。当初は農業委員の仕事について何も知らなかったが、食育関係なら大丈夫かなと思い、やってみることにした。

就任してみたら女性委員は自分一人だけで戸惑ったが、農業について学びたいという気持ちも強かった。今まで女性委員がやってきた仕事を次に引き継がなければという使命感で、周りの農業委員、事務局からサポートを得てなんとか今までやってきた。

女性にはできる仕事、役割がたくさんあると思う。年代・性別問わず、いろいろな方に参加してもらおうこと、農業委員の仕事をもっと皆さんに知ってもらうことが重要だと思っている。

〈M.T 氏〉

E 町農業委員会では女性枠が2名あり、前任者から依頼され、就任した。女性ならではの視点・アイデアをもって農業を盛り立てたいと思ったため、引き受けた。県農業委員会女性委員の会の役員も務めている。

就任後に感じた課題は、男性中心の農業委員会のなかで女性一人での登用は心細いと感じるのではないかということ。

女性農業委員だからできることは、地区の女性、特に高齢者からの農地の売買・交換などについての依頼について、女性委員だから忌憚なく話し合えるのではないかと思う。

〈M.H 氏〉

女性の委員が求められていると依頼され、6年前に農業委員に就任。そのときは女性委員がもう一人いたが体調不良でやめた。自分もやめようかと思ったが、女性委員を次に繋いでくれと前会長から頼み込まれ、3年前に会長に就任（県内初の女性会長）。

今年改選を迎える。4人を目標に女性委員を登用したいと考えている。一本釣りで頼むしかないとの話を聞き、自分でも候補として思い浮かぶ方がいるのでお願いしてみようと考えている。

〈T.T 氏〉

〇市の農業委員数はもともと 22 人だったが、過半は認定農業者という決まりが非常に重荷であったため 10 人にし、最適化推進委員を 21 人として合計 31 人とした。農業委員 10 人のうち 3 名は女性にしたいとの思いがあり、選挙で選ばれた女性が 1 名いたため、中立委員 1 名は女性から選び、あとの 1 名は認定農業者の経営に携わっている方から選ぶこととした。

委員の仕事内容に男女の区別はないが、男性委員に比べて集落座談会などに出席する機会が少なかった女性の方々には、地区（集落）の集会などに出て行く機会を作ることが重要。

意見交換【女性登用促進のためにどのような取組をしていったらよいか】

〈N.K 氏〉

相変わらずの輪番制を打破したい。「2 期の壁」と呼んでいるが、2 期やったから交代しなければならないといった声はこれまでにいろいろなところで耳にしている。輪番制によって地区の悩み等がうまく引き繋がれないと感じる。

地域に入っていくにしても、農業委員会できいろいろと活動をするにしても、他の女性委員に自分の背中を見せていく、また農業委員会の中で女性を受け入れて育てる雰囲気を作っていかなければ、「2 期の壁」は破れない。周りが女性委員や初任者に無関心なら、やりがいを感じられずにやめていくことになるので、それだけは避けなければならないと思う。

県女性農業委員の会の会長として実行していることは、研修会のとときの保育ルームの設置。総会で合意を得て、会員の会費から費用を出している。

〈Y.I 氏〉

女性農業委員の活躍の場を増やす手立てとして、女性委員の数を減らさないことが重要。女性には、複数で活動するとパワーアップする、女性のおしゃべりはアイデアを生む、家族の食を担っているという自負がある、失敗してもへこたれない、フットワークが軽い、などの強みがあると思う。

〈R.H 氏〉

何もわからないままスタートした。女性委員の仲間を増やしたい。

高齢化と担い手不足による人手不足解消から農福連携にも取り組んでいる。観光客に農業体験をしてもらうプランづくりもしている。女性にはこんなことができるということを男性に理解してもらおうというと思う。

〈M.T 氏〉

22 歳で嫁いで 50 年以上農業を続けている。農業委員に就任して 2 期目になる。

1 月に県内の市町に女性登用の要請に行ったとき、「農業委員は男性」という考えが残っていると感じることも多かった。

女性委員が増えると、それぞれの市町で取り組んでいることを女性委員同士が情報交換することで、活気ある農業委員会になると思う。

〈M.H氏〉

6年前は女性委員が2名いたので、毎月の総会後に今後の取組について相談していた。

女性委員が自分一人になって、一人じゃ何もできないと実感した。女性委員が一人しかいない市町は他にもあるので、そういう人達を集めて何か共通の活動ができないか、県の組織にもお願いしているが何もできていない。

今回の改選で女性委員をもっと増やして次につなげていきたい。

〈T.T氏〉

地域、農業委員会の男性の意識が変わらないと困難。

O市農業委員会は女性登用率30%となっているが、もともと議会推薦とJA推薦はすべて女性にする方針であった。現在の女性委員3名のうち、1名は中立委員、1名は旧来の選挙区から、もう1名は認定農業者の経営に携わっている方。地区ごとに定員を割り振っており、定員が多い地区に女性を1名は出してほしいとお願いしている。

この人数を増やしていけるかという、難しいと思う。地域では男性の声が強いし、男性の仕事を奪われると感じる方もいる。上意下達ではないが、農業委員会で女性の枠を決めて地域に浸透させていかないといけない。

農業委員会としてできることは、まずは女性枠を設定すること。農業委員、役所、議会の理解を得るのが重要。

〈局次長〉

以前、N.K氏の県の農業委員会大会の研修会にお邪魔した際、司会と農業委員会憲章の朗読を女性委員が担われていた。これまでの経緯と、感じていることをN.K氏にお話ししたい。

〈N.K氏〉

農業会議から提案されて、2～3年前から県女性農業委員の会の副会長2名が司会を行っている。農業委員会憲章の朗読については、かなり前から女性が読み上げることになっている。

事例発表では、A市で作成した斡旋マニュアルについてお話した。当地区では毎月4～5件、かなりの面積で斡旋が出てくる。女性の新任の委員が、就任1週間後にすぐ斡旋を任されるのを見てかわいそうだと感じたことから、何年もかけ、これまでの経験を踏まえてマニュアルを作成した。女性もマニュアルがあれば男性と同等の仕事ができると思う。

〈経営・事業支援部長〉

N.K氏に聞きたい。M.H氏から一人では何もできないという話があったが、後進を育てる方策はなにか。

〈N.K氏〉

A市農業委員会では女性委員の登用は自分に任されてきた。当時の会長から言われたのは、長くやってくれる人、地域のために動いてくれる人という2つの条件だったが、自分の課題として、

自分より若い人、ということも考えている。現在、自分以外に3名の女性委員がいるが、全員30代で就任し、15年、7年、6年と続けてくれている。

登用の話をする際には、ご主人の理解を得るため同席してもらい、報酬の話もする。

県女性農業委員の会では、女性委員同士の交流を深めるため、県出先機関の範囲でランチミーティングを行っている。特に地区で一人しかいない女性委員を、精神的に一人にさせないという想いで始めた事業。これからもどんどんやっていく。

〈地方参事官〉

M.H氏から、「一本釣りしかない、4人の心当たりがある」という発言があったが、どのようにその4人を探しているのか。

〈M.H氏〉

もともとJAに勤めていたことから、適任かなと思う面識のある人に目星をつけている。真剣に農業に取り組んでいる人には、自然と会議などいろいろな場で出会う。

〈経営・事業支援部長〉

T.T氏から枠を決めていくのが大事という話があったが、枠を決めれば女性が自主的に出てきてくれるものか。

〈T.T氏〉

先ほどN.K氏から話があったが、マニュアルがあれば男女の区別なく同じ仕事ができると思う。ただ、農業関係の会合に出るのは男性が多い。とにかくその場に出て、知識をつけてもらうしかない。男女問わず、公的な役（JA理事、町議会議員、農業委員等）を順番に引き受ける意識が薄れてきている。

〈M.T氏〉

再来年には自分のところも改選を迎える。要請の際に、E町の町長へ直接、お話ししたところ「女性枠をもう1つでも増やそうか」と言ってもらえた。出向いて直接訴えかけることも重要。

事務局など組織からの支援でありがたいと思ったのは、改選に向けた要請・意見交換の場を設けてくれたり、女性委員の研修の場でよきアドバイザーになってくれたりすること。

〈N.K氏〉

女性登用に長く取り組んでいるが、継続的に男性へ訴えかけていくことが重要だと思っている。少しずつ反応が変わってきて、目標30%、とりあえず20%という意識は確かに会長さんたちにある。会長さんたちが意識してくれると委員会の土壌が変わっていく。

これまで女性を勧誘して断られたことはない。私が登用を進める中で、一番大事にしていることは、決して一人にしないこと。決め台詞は、「あなたと一緒に仕事がしたい、フォローするから共に頑張りましょう」。1期を過ぎると自ら育っていく。

以上